

「ビジョンを語る会」主な意見 加西商工会議所

実施日： 10月23日(金) 人数：13人

(子どもたちの創造力・行動力・チャレンジ精神を養うことが大事)

自動車学校として県内初のドローンスクールを開設し、小学校に出向いてドローンを使ったプログラミング教育をしている。未来では今想像できないような仕事が生まれているだろう。急速に変化する時代でも力強く生き抜いていける若者を育て、そういった若者が集まるような地域にしていきたい。

(人材確保の困難性、持続可能なスマートカントリー)

ものづくりはリモートの対応が難しく、現状は外国人技能実習生の現場労働に頼っている一方で、日本人の優秀な若手幹部候補生が確保できない。他地域から優秀な若手人材が集る大学や研究機関をつくるといった仕掛けが必要。特区などを活用して規制緩和を進め、ベンチャー企業が集まって最新技術を開発したり、外国人の採用を活発に進めたりすることのできる地方(カントリー)になってほしい。

(働く、学ぶ、遊ぶ、暮らす)

働く、学ぶ、遊ぶ、暮らすという4つの要素において便利な町になってほしい。「働く」に関しては産業団地の発展、「学ぶ」に関しては通学のしやすさ、「遊ぶ」に関しては自然や史跡を生かしたレジャー施設、「暮らし」に関しては行政、学校、医療機関の集約。そのためには交通インフラの整備と、土地を有効利用できるような規制緩和が必要である。

(「不便」に対する考え方が変化)

コロナ禍でリモートワークやリモートスタディが急速に進んだことにより、公共交通機関のアクセスに関しての不便さに対する考え方は非常に変わった。今後は、技術革新によって交通インフラがなくても、地域の特性を生かしたまちづくりができると思う。

(新規就農、後継者の育成の推進)

加西市と言えばモノづくりと広がる田園が美しい町というイメージだったが、残念なことにその景観が崩れてきている。水稻栽培の後継者が急激に減ってきているからだ。新規就農は誰もが簡単にできるわけではない。新規就農の規制緩和や水稻の後継者育成、集団営農の推進などを多角的に進めていく必要がある。

(尖った政策で30年後に魅力ある土地に)

30年後に兵庫県が魅力ある土地であるためには、尖った政策が必要だ。例えば、加西市はブドウが有名だが全部を畑にしてフランスを超える、地元の北条高校を5年制にして2年間は海外で単位を取るなど。世界で戦える人間を創っていくと、その魅力に他の市町村や県外から人が集まってくる。

(5市1町で北播磨市をスマートタウンに)

30年後の北播磨地域をスマートタウンにする。三木ならスポーツ特区、西脇なら果樹園などの農業特区というように、5市1町の現在の各市の特性を生かして、北播磨市という形で運営していく必要があると思う。

(子どもを社会全体で育てる)

中国香港にも会社の工場があるので20年間ほど行っていた。日本に帰ってきて、子育てしにくいという感じを受けた。自分が子どもの頃にはあった社会全体で子どもを育てていくという雰囲気、変わってしまっていた。少子化が進む中で、今から生まれてくる子どもたちは本当に力を持たなければいけない。親に対しての各種援助は整備されていると思うが、それだけでは足りない。子どもを育てるのは社会全体だ。

(高齢者が住み良い町は現役世代も働きやすい町)

今は、働く世代が、集中して働ける環境にない。祖母が脳梗塞で倒れ医療のできる老人ホームを探しているが、なかなか入れない。父母もまだ働いているので祖母の面倒を見る時間が取れない。働く世代が負担なく働ける町になればいいと思う。高齢者が地域に支えられて住めるように、訪問医療、宅配弁当、オンデマンドバスなど、高齢者が住み良い町になるよう考えたい。

(土地の利用規制の緩和を)

9年前に工場の自動化とIoTのスペースが必要で工場建設のための土地を探したが見つからなかった。こんなに土地があるのに使えないことに葛藤があった。(4年前に加西工業団地に工場を建設できた。)これから成長しようとする事業主が簡単に土地を使えるような政策が進み、活性化していけばと思う。

(医療は広域的な考えで)

医療には地域格差があり、加西市外で治療しなければいけないことが増えている。また、救急車の搬送時にも、搬送先が対応できないなどで受け入れ先がなかなか決まらない。医療に関しては、加西市だけで全てという考えでは無理が生じるので、北播磨市というような広域的な考えで進めたい。

(人口減少を食い止める仕掛け)

人口減少が全ての悪循環の根源だと思う。家を新築するときの設計では子ども2人が基準になっている。3人の子どもを育てていけるような仕掛けができないか。突拍子もない政策を打っていかないと歯止めがかからないと思う。少しでも出生率を上げ人口減少を食い止めていかないと、30年後の未来を描いても、それは絵にかいた餅になってしまう。